

第3回小テスト

— L^AT_EX 2_ε の画像、表、相互参照、索引 —

学科専攻
番号 氏名

2016年12月13日

赤色のところは相互参照など L^AT_EX 2_ε のコマンドを用いること。ただし、解答に色を付けなくてよい。

1 画像と表の問題

次の2つの問題から1つを選び、問題文と指示されたグラフを L^AT_EX 2_ε によりタイプセットせよ。グラフには適当にキャプションを付けること。

1. 朝日新聞社が2015年11月7日8日に行った全国世論調査(電話)で「法律を改正し、同姓か別姓かを自由に選べるようにする選択的夫婦別姓」の賛否を尋ねたところ、年代別賛否は次表のようであった。

年代	賛成	反対	その他・無回答
20~30代	58%	25%	17%
40代	64%	27%	9%
50代	60%	29%	11%
60代	47%	41%	12%
70歳以上	34%	48%	18%

年代別賛否の棒グラフは図1である。

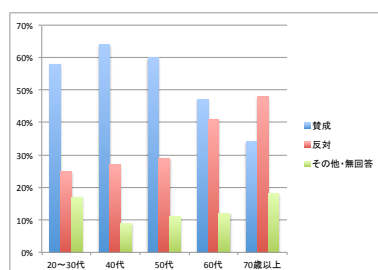


図1 夫婦別性の年代別賛否

2. $f(x) = x^3 - 3x + 1$ の導関数は

$$f'(x) = 3x^2 - 3 = 3(x+1)(x-1) \quad (1)$$

である。(1)より増減表は次表のようになる。

x	...	-1	...	1	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	3	↘	-1	↗

増減表より $f = f(x)$ のグラフは図2である。

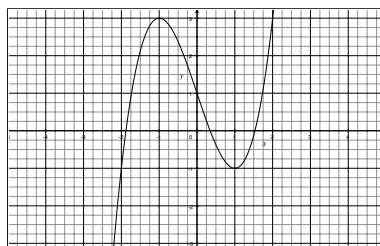


図2 $f(x) = x^3 - 3x + 1$ のグラフ

2 文献参照

文献データベースは thebibliography 環境の中に書く。文献データの書き方は箇条書きに似ているが、項目には `\item` ではなく `\bibitem` を使い、`\bibitem{参照名}` のようにラベルをつける。参照は `\cite{参照名}` とする。ページ番号は `\cite[補助情報]{参照名}` のように指定する。[1, p.179]

3 索引

ソースファイル名を `abc.tex` とする。索引を付けたい用語の直後に `\index` コマンドで、`\index{索引語}` あるいは `\index{よみかた@索引語}` を付ける。

索引は `MakeIndex` というプログラムを日本語化した `mendex` というプログラムを用いる。プリアンブルで、`makeidx` ファイルを読み込み (コマンドは `\usepackage{makeidx}`)、その後 `\makeindex` と書く。

タイプセットするとソースファイル `abc.tex` と同じフォルダ (ディレクトリ) に `\makeindex` コマンドにより拡張子 `idx` のファイル `abc.idx` が作成される。ターミナルで

```
mendex abc.idx
```

とすると、`mendex` プログラムは `abc.idx` をアルファベット順、50音順に並べ替え、`abc.ind` というファイルに出力する。独自の索引スタイル (たとえば、`myright.ist`) にするときは、

```
mendex -s myright.ist abc.idx
```

とする。もう一度タイプセットすると `printindex` コマンドが `abc.ind` を読み込んでその場所に索引を挿入する。[1, p.165]

参考文献

[1] 奥村晴彦・黒木祐介、 $\text{\LaTeX} 2_{\epsilon}$ 美文書作成入門、改訂第6版、技術評論社、2013

索引

makeidx	2
mendex	2
thebibliography	2
拡張子	2
キャプション	1
ソースファイル	2
ソースファイル名	2
タイプセット	1, 2
フォルダ	2
文献データベース	2